

リニアは夢の垂り物か？

ストップリニアニュース No.54

発行：2019.9.20 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagamihara-g.mond.jp/>

－ 神奈川県民の水源は大丈夫か －

津久井でリニア残土問題学習会

9月7日（土）、津久井中央公民館会議室で、『学習会「これから起こる津久井の残土問題 - 県民の水源を守るために」』が行われました。当日は約50人が参加しました。

最初にリニア連絡会より、藤野トンネル区間の非常口変更と残土処分問題でのこの間の取り組みについての報告がありました。

◇横浜市は異例のスピード対応

200万㎡もの残土を採石業者に丸投げすJR東海の無責任な姿勢や残土の集落や道志川への流出の危険、この問題で、JR東海はもとより、相模原市にも、管理監督の徹底を求める要望書を提出し、現場パトロール強化を表明した横浜市の異例の対応等が指摘されました。次に田所健太郎相模原市議より議会質問の中で明らかになった、この問題での課題や問題点について報告がありました。

◇JR東海の隠蔽体質

神奈川県駅、長竹、新戸、大洞非常口と軒並み位置が変更される計画の杜撰さ、全量を処分すると発表した大洞非常口の残土は、許認可権者の相模原市にはまだ具体的な相談がされていないという無責任さ、用地買収を協力している相模原市にも十分な情報を出さないJR東海の隠蔽体質とそれを容認している相模原市の不甲斐ない態度等が指摘されました。

◇津久井で再び残土問題が

報告の後は質疑と意見交換が行われました。牧野から参加した人達からは、牧野各地での残土反対運動の経験が報告され、串川の参加者からは、志田峠に農場計画の名目で100万㎡もの残土の埋め立てが計画されており、ここに長竹非常口の残土が持ち込まれることを懸念する旨の報告がありました。

長年、残土で苦しんできた津久井地域で、リニア工事の進捗に伴い、各地で残土処分の問題が噴出してきていることを改めて確認しあう学習会となりました。（河内）



お話を
する
田所
市議

ストップ・リニア！訴訟 次回口頭弁論の予定

10月11日（金）14：30～ 東京地裁103号法廷

リニア相模原連絡会

ブログ：<https://linearsagamihara.hatenablog.com/>

ツイッター：<https://twitter.com/tV8aD60PlgYXFFE>

リニアトンネルで、水枯れが心配！

神奈川県の水源地である相模原市緑区の、リニアトンネル全体を見ると、藤野トンネル10.5Km、津久井トンネル6.3km、鳥屋車両基地トンネル4.1Kmで総延長20.9Kmです。

直径14mの巨大トンネルから掘り出される残土、汚泥は、396万立方メートル、津久井湖に流入する道志川、串川の左岸の地下深くを巨大トンネルが掘られるため、無数の沢や、小河川の水枯れが予想され、また残土での水の汚染が心配です。

津久井地域のリニアトンネルの周辺では、湧き水や、井戸水を利用する水道組合や個人も多く、JR東海に工事が始まる前の水量や水質の調査をさせ、工事の影響がないか確認する必要があります。

串川水源、鳥屋では保水力のある山50万立方メートルを崩し生活環境を破壊、360万立方メートルの残土を取り、車両基地を作ります。年間1千万立方メートルの水を津久井湖に供給する大切な串川、県民の命の水の危機です。山梨県では、リニア実験線の建設で、これまでに相模川水系の沢や、小河川34箇所が水枯れし、JR東海が補償を行っています。(松本)



リニア工事のため水がなくなった橋の入沢(山梨県) 梶田秀樹ブログより

リニア中央新幹線はほんとに必要？

第65回日本母親大会 in 静岡 8月24日「リニア分科会」

リニア新幹線ルート上の1都6県で静岡県は唯一、駅のない県でありながら、県民の水がめの大井川が毎秒2トン減水するとJR東海に対し、川勝知事が反発し、唯一、工事着手していない県です。その静岡で開かれた母親大会では、林克さん(リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク)が基調報告。続いて、私が相模原市内の影響について画像を使って報告。沿線各地から地元で何が起きているか、生活者の目線での報告がありました。アルプス登山を通じて、「この自然を壊されるのはとんでもない」との発言も…。

最後にJR東海に対して情報開示を求め、自治体に対しては「私たちの暮らしに多くの悪影響があるリニア新幹線を作るより、身近な道路の補修や教育・福祉などに税金を使って欲しい」と働きかけよう。そして、互いに交流し、連携して「リニア新幹線をストップさせよう」との申し合せを拍手で確認しました。(建部)



南アルプスの山々

“幸せ色”本村市長へ

100年のクスノキと500本の樹の緑を守ってください!!

◎この3月、県立相原高校は強制移転させられました。1月より当会は約2700の署名や100名以上に及ぶ卒業生等の賛同嘆願書を提出しました。7月には市長面談をして、“保全も考えて樹木診断をする”との市長の力強い回答で診断は実現しました。

◎しかしその後、必要なケア対策(害虫・キノコ対策の薬剤注入、下草刈り、土壌改良)もされず、“県と協議中”の言葉でのごし放置状態です。铁塔移設工事の名のもとに、すでに樹木1000本中の500本は切り倒され、無残な工事ヤード化し、さらにJR東海のリニア駅工事説明会日程が発表されました。このままでは更地にされ、リニア駅をてこにした開発の餌食にされてしまいます!! このリニア被害は橋本の街を砂漠化してしまう。

◎本村市長が掲げたSDGsとは持続可能な開発を目指し、地球環境を保全するものです。無謀な開発行為は逆行するものであり許されません。

◎本村市長の賢明な勇断を心から求めます!!

「橋本の緑と安心を守る会」浅賀

「車両基地の旅客線化」という幻想

黒岩知事の無責任な発言が地元混乱を招く

◇JR東海はきっぱりと否定

神奈川新聞によると、黒岩祐治知事は今年6月、リニア新幹線計画を巡り、鳥屋地区に建設予定の車両基地への回送線の旅客線化を目指すことを明らかにし、「JR東海の意見も聞きながら、相模原市と連携して取り組んでいく」と述べたといいます。車両基地を活用した地域振興策として、過去にも橋本・鳥屋間の営業運行を求める声はありましたが、その可能性についてJR東海はきっぱりと否定しています。いまさら話を蒸し返して、黒岩知事には相手の考えをくつがえす秘策でもあるのでしょうか。

リニア計画が発表された当初、JR東海は中間駅建設の地元負担を求めていましたが、沿線自治体の反発により自社負担に変更した経緯があります。建設費用の節減を図りたいJR側にとって、これは地元の協力を得るための妥協措置です。単独事業として「リニアはペイしない」ことを認める経営陣が、赤字を拡大させるだけの要求を新たに受け入れるとは到底思えません。

また、昼間の時間帯に回送線へのポイント切り替えを繰り返すことは、品川・名古屋間の本線営業の妨げとなり、自動運転でのダイヤが複雑化すれば安全性へのリスクも高まります。JR東海にとってはマイナス要因でしかないのです。黒岩知事も、同じく「回送線の旅客線化」を主張する本村賢太郎市長も、JR東海とまともに意見交換できると考えているなら、リニア計画に対する認識が甘すぎるというしかありません。

◇実現不可能な地域振興策に期待をいだかせるべきではない

リニア建設に際して用地取得事務の一部を受託し施設周辺環境整備を担当する県や市が、実現不可能な地域振興策で住民に期待をいだかせるのであれば、それは相当に罪深い行為です。沿線住民をリニア建設に協力するように仕向けておいて、結果として期待が裏切られるのであれば、利するのはJR東海だけです。行政サービスとはだれのためのものか、どちらの方向を向いて行っていくべきかを、リニア工事が本格化する前に改めて確認しておく必要があります。(籠島)

鳥屋トラスト地の測量を拒否!!

8月27日付けの消印で、「中央新幹線（リニア）建設に係る測量調査ご協力をお願い」の通知が、鳥屋のトラスト地の地権者メンバー11名に届きました。昨年秋に次いで2度目の通知です。今回は、「協力する場合は承諾書を返信」との内容でしたので、11名全員が無視を決め込んで、協力拒否の姿勢を示しました。



鳥屋車両基地の予想図（JR東海資料より）

「現代ビジネス」でリニア実験線の乗り心地の悪さを解説した記事が出ました

夢のリニア中央新幹線、乗ってみてわかった「実現への不安」

川辺謙一さん（交通技術ライター）がリニア山梨実験線に試乗して、その振動、騒音を在来型新幹線や航空機と比較して「営業運転に耐えうるものとは思えない」と批判しています。「もし車輪が接地する瞬間に通路やデッキに立っている人がいたり、トイレに人がいたら、不安定な姿勢のまま大きな衝撃を受け、転倒する恐れがある。」と指摘しています。

詳しくは下記より。

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/67080>

=JR 東海は工事説明会で住民の疑問を払拭できるのか?= 1キロにも及ぶ橋本リニア駅建設工事の影響は甚大だ!



皆で参加しましょう

会場は全て「社のホール」
(橋本駅北口 ミウィ7F)

10月3日(木) 14:00~
10月6日(日) 19:00~
10月9日(水) 14:00~
10月13日(日) 19:00~
10月15日(火) 14:00~
10月20日(日) 19:00~

建設会社とJR東海が説明します
質問の時間もあります

当初 JR 東海は駅建設に10年かかると説明していました。住民は長期間、地表から30mも掘る工事や膨大な残土を運ぶトラックによる騒音、振動、大気汚染、交通規制、交通渋滞、事故の危険にさらされます。高校跡地の緑はどうなる? 地下水への影響は? ... 日々の暮らしや営業にも大きく影響する大工事。市民の疑問を無視して工事はできないはず。 (桜井)

「津久井農場計画」は大規模残土処分場になる?

— 準備書説明会に参加して —

(有) 佐藤ファームが、相模原市緑区長竹に大規模な農場を計画中で、相模原市の環境影響評価条例に基づく環境影響評価準備書を市に提出、その概要についての説明会が9月5日と8日に、緑区の串川地域センターで2回開かれた。個人の農場計画なのになかなか大がかりな印象。説明会の時間は予定より延長されたが、質問は途中で打ち切りになった。計画地は愛川町に近く、国道412号沿いのオギノパン前の信号を志田峠方面に入り、東京農工大の農場に隣接する山林の中につくられる。100万立方メートルもの盛土をし、その上部を平らにして農場をつくる(標高340m)。盛土は厚いところで50mにもなる。深い谷間を埋めて盛土するため水抜きのため太い排水管は必須と専門家は言う。

農場は来年から山林を造成してつくられ、工期は5年。農場では牛250頭を飼うという。オーナーは茅ヶ崎に住み、そちらで農業をしているためこの農場には住まない。国道412号から市道志田線に入ると道路は狭く、1日350台ものトラック通行は安全とは思えない。100万立方メートルもの盛土をどこから運ぶのか。(株)フジタは「今数か所にあっている」という。リニアの長竹非常口が近いからそこら運ぶ可能性があるのではないか。(河村)



農場のイメージ図

志田峠へ抜ける道に面して、崖崩れがあり、ブルーシートがかぶせてある。土砂崩れが心配される場所だ。近くに藤野木-愛川断層がある。準備書の閲覧、意見書の提出は市のホームページにて
<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/kankyo/1008247/1008249.html>

お願い

★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。
郵便振替口座:00240-7-71305 口座名:リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者: 代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本 2-6-2 携帯 090-4378-9257